

小さい組織の学内MLA連携から世界のMALUI連携へ ～お茶の水女子大学附属図書館と歴史資料館の取組みのご紹介～

森いづみ、染井千佳、餌取直子（お茶の水女子大学図書・情報課）

1. はじめに

お茶の水女子大学(以下、「本学」という)は、前身である東京女子師範学校が1875年に開校し、2015年11月に創立140周年を迎えた。学生数は約3,000名、教員数(含附属学校園)約470名、職員数は約100名で、コンパクトなキャンパスにナースリー(保育施設)から大学院まで幅広い年代が集う、小規模な総合大学である。

本学では、教育・研究成果や所蔵する貴重な史資料を保存し、かつ広く世の中に発信することを目的に、2015年現在、次に挙げる資料の電子化および提供サービスを行っている。

- ①お茶の水女子大学教育・研究成果コレクション TeaPot¹⁾ (2007年4月～)
- ②お茶の水女子大学E-bookサービス²⁾ (2012年3月～)
- ③電子版貴重資料³⁾ (2009年1月～)
- ④お茶の水女子大学デジタルアーカイブズ⁴⁾ (2009年1月～)

これらは本学附属図書館のウェブサイト⁵⁾からリンクしており、管理運営は①～③が図書館、④は歴史資料館が行なっている。本学は小さい組織で、学術情報・広報担当の副学長が図書館長と歴史資料館長を兼務し、事務組織は図書館、歴史資料館、情報基盤の担当職員が図書・情報課に集約されており、連携がしやすい環境にある。

本稿では、まず背景をMLA連携の観点、および図書館コレクションの守備範囲の観点から概観する。次に、①～④の各サービスの概略を紹介し、さいごに今後のさらなるサービス向上を目指した方向性について述べる。なお、MLA連携とは、コトバンクによると「博物館(Museum)、図書館(Library)、文書館(Archives)の間で行われる種々の連携・協力活動」⁶⁾のことである。

2. 背景

2.1 MLA連携からMALUI連携へ

従来、MLAの各機関は、「それぞれ独自に図書、モノ、美術品、文書といった「資料」の収集と組織化をおこない、公共利用の機会を提供してきた。しかし近年、これらの「資料」はデジタル情報として共通に扱われるようになり、ネットワークを通じ、あるいは知のデータベースとして、同一の知識基盤のなかで認識」⁷⁾されるようになってきている。

水嶋⁸⁾によると、「高度情報化社会に移行した今日、ネット上に存在する資料情報を検索する人たちは、もはや博物館・文書館・図書館の壁を意識せずに入手したい情報を探し求めている」。また、このような状況下で、文化保存機関の使命には、次の3点が新たに加わったことが述べられている。

- (1) 未整理の歴史的資料を何らかの形で「情報」として保存すること(たとえば目録の形で)
- (2) 今日の文化的事象や歴史的文化財を未来に伝承していくために記録化・情報化すること
- (3) 誰もが使いやすい情報として創りだし(デジタル化)、活用できるように文化的情報を社会的文脈の中に位置づけて積極的に発信していくこと

本学の4つのサービスは、上記のうち、(3)を実現するものと位置づけることができる。

また、MLAを一歩進めて、「地域の文化資源をすくい取りつつ新たな専門職を養成するプラットフォーム」として、MALUI 連携という提起もなされている。MLAに加えて、「重要なアクターとして「大学(University)」、「産業(Industry)」を加え、その特性を発揮して良い影響を与えあう丸い輪になることをイメージして語順を並べ替えたもの」である⁹⁾¹⁰⁾。

本学の場合、小さい組織であるがゆえに、図書館と歴史資料館が同一の組織内で運営されており、組織内の小さいMLA連携を行なっている(Aに相当する文書館は、第7章で取り上げる)。さらにそれらを内包する大学が、他の文化保存機関とのネットワークでMALUI連携の一翼を担うことを目指すという、二重の構造になる。

2. 2 図書館コレクションの守備範囲

一方、図書館単独で見た場合は、どこまで手を広げるのかという疑問もある。その答えは各機関内でどのような役割分担をしているか、機関としての使命をどう位置づけるかにもよるが、そもそも図書館が取扱う資料の範囲が変わってきているという背景もある。

Dempseyら¹¹⁾が、図書館のコレクションと収集の将来について省察したOCLCレポートでは、コレクション構築のフレームワークとして、「希少性」と「管理責任」の高低から、さまざまなコンテンツを4つのカテゴリに分けている(図1)。この図の中では、希少性が高く管理責任が高いコンテンツ(“High - High” カテゴリ)として、“Local History Materials(地域の歴史資料)”や“Archives & Manuscripts(文書や手稿)”といった、文書館や博物館が取り扱うようなものも図書館のコレクション構築のフレームワークに入ってきている¹²⁾。

3. お茶の水女子大学教育・研究成果コレクション TeaPot

3. 1 概略と利用状況

お茶の水女子大学教育・研究成果コレクション TeaPot(以下「TeaPot」)とは、本学の教育・研究成果を恒久的に保存し、インターネットで公開することを目的とした機関リポジトリである。名称の由来は、本学の名称から「お茶」(Tea)をとり、ティーポットのように教育・研究成果を注ぎだすイメージにある。サービスの正式公開は2007年4月18日で、現在の登録コンテンツは約36,000点を超える。2014年度のダウンロード数は923,590回であった。

3. 2 特色

本学が発行者となっている紀要や報告書、博士学位論文を掲載している。図1に当てはめると、“High-Low” カテゴリの“Research & Learning Materials(研究・教育資料)”や“ePrints/tech reports(eプリント/テクニカル・レポート)”、“High - High” カテゴリの“Theses & Dissertations(博士学位論文)”などが該当する。

その他、特色あるコレクションとして、文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学コースの創作舞踊公演の動画コンテンツや日本幼稚園協会が発行する『幼児の教育』を掲載している。『幼児の

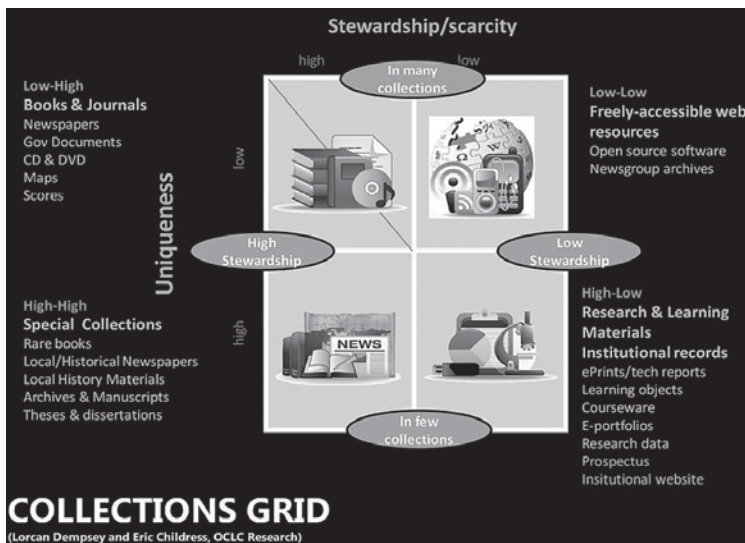


図1
コレクション構築のフレームワーク
: コレクション・グリッド

教育』は、日本で最初にできた幼稚園である本学の附属幼稚園とは、1901年の創刊時から深く関連している。2007年に編集主幹をしていた本学教員からの相談をきっかけとして、現出版元のフレール館と協議を進め、2008年、創刊号から刊行後数年が経過した号までをTeaPotで公開することとなった¹³⁾。

3. 3 発見・利用経路

TeaPotのコンテンツは、GoogleやGoogle Scholarで検索ができる。また、機関リポジトリのコンテンツはOAI-PMHによるメタデータハーベスト¹⁴⁾の対象になっており、国内の機関リポジトリのメタデータを収集しているJAIRO¹⁵⁾や世界の機関リポジトリコンテンツを収集しているOAIster¹⁶⁾からハーベストされ、検索されるようになっていいる。また、論文タイプのコンテンツはJAIRO経由でCiNiiにもメタデータが渡され、CiNiiの検索結果からTeaPotの本文へリンクがたどれる。さらに、紀要と報告書については、それぞれタイトル単位でERDB-JP¹⁷⁾ (Electronic Resources Database-JAPAN)にも登録している。これにより、商用ナレッジベースのベンダーにデータが渡り、その製品を導入している機関では、ディスカバーサービスやリンクリゾルバからのアクセスが可能である。

3. 4 課題

TeaPotに搭載された主要なコンテンツは紀要論文や報告書である。オープンアクセスの推進という機関リポジトリ本来の目的に適った学術雑誌論文(いわゆるグリーン論文)の収集・公開が進んでいないことが課題である。

4. お茶の水女子大学E-bookサービス

4. 1 概略と利用状況

お茶の水女子大学E-bookサービスとは、本学の研究・教育成果としての単行本相当の著作を、電子書籍として無償で公開するサービスである¹⁸⁾。電子書籍にはISBNを付与し、E-bookサービス専

用のサイトからPDF形式で公開している(一部EPUBとiBook形式でも公開)。

図1に当てはめると、E-bookサービスのコンテンツは、“Low- High”カテゴリに相当する。現在公開している6作品の内訳は、人文学系の大著が3作品、プログラミングの講義資料を再構成した理系の教科書、本学の授業・学習システムの利用方法を解説した教科書、体重管理のためのカード教材である。本学の多様な教育・研究内容がよく表われたラインナップとなっており、大学のブランド力の向上にも貢献している。

2012年3月28日にサービスを開始、現在6作品8点を公開している。2014年度のダウンロード数は17,543回であった。

4. 2 特色

運営体制は、本学教員等により組織される運営委員会が出版可否などの重要事項の審議を行い、実務は図書館が行っている。印刷版を希望する場合は、「特定非営利活動法人お茶の水学術事業会」が有償でオンデマンド出版による製本版を販売している。

既存のシステム(TeaPot)を活用し、最小限のコストで大学の研究・教育成果としての電子書籍を刊行していることが最大の特色である。商業出版ベースでは流通させることが難しい教育・研究成果を広く世の中に発信する仕組みが高く評価され、2013年度の国立大学図書館協会賞を受賞した。

4. 2. 1 出版のプロセス

- (1) 出版を希望する著者が、E-bookサービスページから「著作の概要レポート」をダウンロードし、必要事項を記載して図書館の担当者へ提出する。
- (2) 図書館担当者からE-bookサービス運営委員会へ出版可否の審議を依頼する。メール審議が多い。
- (3) 委員会で出版の承認が得られたら、著者と「利用許諾契約」を締結する。
- (4) 著者から完全原稿をPDFファイルの形式

で受け取る。図書館では編集機能は持たないが、ページレイアウトの相談対応や、必要に応じて専門業者への校正依頼を行なっている。

- (5) ISBNや奥付等を付与して書籍としての体裁を整え、TeaPotに登録し、E-bookサービス専用サイトから公開する。

出版希望が寄せられてから実際に公開する期間はケースによって異なり、著者のペースで執筆が進められる。

4. 2. 2 従来の出版モデルとの相違

従来の出版モデルとの相違について、「著者との契約内容」、「対価」、「出版物の在庫」、「流通経路」の4つのポイントから見てみる。

著者と本学が締結する「利用許諾契約」の内容は、「著者が、附属図書館と事業会に著作の利用（インターネットでの公開、印刷版の販売）を許可する」ものである。通常の出版契約のように出版権を出版社に譲渡する契約ではないため、E-bookサービスで公開した著作を、別の出版社から販売することも可能である。その場合、著者からの申し出により、E-bookサービスでの公開を取り下げることができる。

対価については、E-bookサービスの刊行によって著者が原稿料や著作権料を受け取ることはないが、自費出版のように著者が出版にかかる費用を負担する必要もない。

出版物の在庫については、印刷版はその都度オンデマンドで有償販売するため、在庫は持たない。

流通経路については、書店経由での流通はない。ウェブ検索やSNS経由、口コミで発見され、電子版で利用されるか、あるいは冊子の注文によりピンポイントで読者に届けることになる。

4. 3 発見・利用経路

電子書籍として本学OPACやCiNii Booksから検索できるほか、TeaPotの仕組みを利用していることから、TeaPotと同様にGoogle、Google Scholar、OAIsterからも検索できる。また、ERDB-JPにも

登録している。『Javaプログラミング入門』はSNSでの口コミ効果で発見されることが多い。

4. 4 課題

E-bookサービス専用サイトは日本語版のみであるため、サイトのグローバル化対応が必要である。また、4.2.1において編集は行なわないと述べたが、担当者の経験上、ある程度の編集に関する知識が望まれていると考えられる。

5. 電子版貴重資料

5. 1 概略と利用状況

本サービスでは、図書館が所蔵する和算資料コレクションと、本学所蔵外邦図コレクションの一部の電子版を公開している。これらのコレクションは、保存の観点から、ともに現物の閲覧が困難な資料群であるため、代替手段として電子化資料による公開を行なっている。図1に当てはめると、“High- High”カテゴリーの“Special Collections(特別コレクション)”や“Rare Books(貴重図書)”に相当する。

5. 2 特色

5. 2. 1 和算資料コレクション

「和算」とは、江戸時代に日本で独自に発達した数学である。本学が所蔵するコレクションは本学卒業生より寄贈された資料群を中心としており、68点を電子化して公開している。

和算の歴史を研究している本学数学科教員により、東京湾海堡工事に尽力した西田明則の旧蔵書が含まれていることが確認され¹⁹⁾、その重要性から、電子化して公開することとなった。現物と電子版を組み合わせた展示例としては、2015年に歴史資料館で開催した「創立140周年記念特別展」において、西田明則自身が書写した『解伏題之法』の現物を展示するとともに、電子版貴重資料のサイトで電子化公開している旨を解説に添え、内容に興味を持つ来場者への便宜を図った。

5. 2. 2 外邦図コレクション

「外邦図」とは、戦前・戦中期に旧日本陸軍参謀本部・陸地測量部が作成した、日本以外の地域を対象とした地図を指す。本学のコレクションは、終戦後、当時の文部省資源科学研究所から購入した地図を中心に、東京女子高等師範学校時代に収集したものや、寄贈などから構成された約13,000点である。

元は本学地理学教室で所蔵していたが、2010年3月、一部を除きほぼすべてが図書館に移管された。地理学教室のサイトで公開していた電子版も図書館のサーバに移設し、「兵要地誌図」74点の電子データを電子版貴重資料のサイトで公開している。サイトにはコレクションの内容紹介のページを設け、一部の所蔵地図には解説も掲載している。さらに、コレクションの全体像について地理学教室の教員らがまとめた論文²⁰⁾へのリンクを貼り、このコレクションの意義を明らかにしている。

5. 3 発見・利用経路

和算資料については、現物の所蔵情報をOPACで検索でき、検索結果のページに電子版へのリンクを張っている。外邦図については、電子版、現物ともにOPAC登録はしていない。各地図の二次情報については、2007年に地理学教室が発行した『お茶の水女子大学所蔵外邦図目録』の冊子体目録や、東北大学の「外邦図デジタルアーカイブ」のウェブサイト²¹⁾の検索機能によって確認できる。両者とも、Googleからの検索が可能である。

5. 4 課題

両コレクションとも専用のビューワを介して公開している。解像度が高く、部分拡大がしやすいなどの操作性は高いが、印刷、保存が困難である。

和算資料コレクションについては、サイトでリストを公開しているのみで、外邦図コレクションのような内容説明がない。また、発見・利用経路が限られている。

6. お茶の水女子大学デジタルアーカイブズ

6. 1 概略と利用状況

お茶の水女子大学デジタルアーカイブズとは、本学出身の女性研究者に関わる資料や、本学校史に関わる資料を電子化し、広く一般に公開しているウェブサービスである²²⁾。文部科学省特別教育研究経費「女性が進出できる新しい研究分野の開拓」(2007年度～2010年度)によって構築された。図1に当てはめると、“High- High”カテゴリーの、“Local History Materials(ここでは大学の歴史資料)”を取り扱っているという位置づけになる。

コンテンツは大きく3部門に分けられる。

(1) 女性研究者名鑑

本学出身の代表的な女性研究者の名鑑

(2) お茶大の歩み

本学の沿革を年表としてまとめたもの

(3) 大学の資料

本学所蔵資料のデジタル化コンテンツ

公開の基準は、東京女子高等師範学校時代の1952年以前に作成されたものである。

ウェブサイト上では、解像度の低い画像を公開している。大容量の画像をサーバに置くことによるネットワークへの負荷を避けるための配慮と、私的利用以外の動向を掴むためである。高精細な画像の提供は、申請ベースのサービスとして行なっている。2014年度は52件の利用申請を受けた。調査・研究目的の利用のほか、各種メディアでの利用がある。

6. 2 特色

(1) 女性研究者名鑑に関連して、現在、保井コノ・黒田チカ・辻村みちよ・湯浅年子の4名を取り上げている。4名の資料は2014年に歴史資料館に移管される以前は本学ジェンダー研究センターが所蔵しており、資料目録が作成されている。このうち、湯浅をのぞく3名の目録は、TeaPotで全文公開している。

(2) 大学の資料は、本学の学校史に関わる資料を電子化し、公開している。コンテンツは、写真資料(卒業写真・卒業記念帖・行事写真・学校

生活・附属校園・絵葉書)、美術工芸、書跡、シヤム国留学生、教育資料、大学史資料、広開土王碑拓本にカテゴリ分けされている。この他刊行物として、学校史、学報・校報、同窓会関係などがある。

学校史については、本学百年史をTeaPotで全文公開しており、リンクがある。またTeaPotで動画を公開出来ることから、東京女子高等師範学校新校舎落成祝賀会記録フィルム(1936年、大塚移転後に行われた祝賀会)を公開し、リンクを置いている。

写真・刊行物・動画・モノ資料と、多岐に渡る資料を一括して公開していることが特徴であるが、これについては後述のように課題も残る。



図2 デジタルアーカイブズ公開画面

6.3 発見・利用経路

デジタルアーカイブズのコンテンツは、図書館ウェブサイトサーバに搭載され、Googleで個々のコンテンツを検索することができる。サイト内の検索もGoogleを活用しているが、年代や所蔵者を限定しての絞り込みなど、きめ細やかな検索は出来ない。また、単純に文字列で検索するため、各コンテンツの説明ページに記載されている他の画像へのナビゲートも検索対象となり、検索意図とは異なる資料がヒットしてしまう。例えば、特定

の教官名で検索した場合、『卒業記念帖』で前後にあたる教官のデータまでヒットする。

6.4 課題

課題としては第一に、検索機能の不便さがある。大学・附属学校園全てを一括で調べる場合、絞り込みができず不便である。コンテンツごとのページで公開しているメタデータ項目が限定的であるため、「幼稚園」等の旧蔵者での絞込検索が必ずしも機能しない。発見性の向上のためには、ウェブサイトに掲載して検索はGoogleに頼るという状況から、データをオープン化しやすいプラットフォームへの乗換えが必要である。

第二に、大学の資料のカテゴリ区分が、増加する公開資料に対応しきれない点が挙げられる。現在、附属幼稚園旧蔵教育資料は「教育資料」に分類されており、絵葉書「東京女子高等師範学校附属幼稚園のお庭」(1935年頃)は「写真資料(絵葉書)」に置かれている。Googleで「幼稚園」で検索すればともにヒットするが、カテゴリが分かれているため、特定のコンテンツにたどり着くには大学資料に対するある程度の知識が要求される。

第三に、所蔵資料の多様性に、デジタルアーカイブズの公開機能が対応しきれていない点がある。先に述べたように、先駆的女性研究者の資料から、写真・刊行物・動画・モノ資料まで、多岐に渡る資料を一括して管理・公開しているため、公開メタデータ項目に不足が生じている。この点については、次章で今後に向けた改善策を紹介する。

7. 今後に向けて

7.1 学内MLA連携に向けて

インターネット時代のMLA連携の目的について、入江は次のように述べている。「MLA連携により、文化資産や知をインターネット世界に複製し、それを基盤として、インターネットの情報を豊かにしていくための構造を構築する一方、インターネット上の情報の信頼性を現実の資料で補完していく仕組みを作ることが、資料を所蔵するMLAの責務である」²³⁾。

本学が提供する4つのサービスは、それぞれ課題はあるものの、図書館(L)と歴史資料館(M)によって「文化資産や知をインターネット世界に複製し、インターネットの情報を豊かにしていく」という機能が果たしている。一方で、大学文書館(A)としての機能は十分ではない状況である。今後は、「公文書等の管理に関する法律」に基づき、「国立公文書館に類する機能を有する施設」の認定を受けられるよう整備を進め、文化保存(発信)機関としての機能を強化することが課題となっている。

7. 2 世界のMALUI連携に向けて

吉見俊哉研究室のウェブサイト²⁴⁾によると、MALUI連携の意義は次のように述べられている。「デジタル技術は活字と視聴覚を架橋し、これまで多様な方式で蓄積されてきた文化的記憶を統合的に扱う。こうした技術的可能性にいち早く着目し、新たな記憶のプラットフォームを構築してきたのは、グーグルをはじめとするグローバル企業である。(中略)やがて地球規模で広がる新たな知識循環型社会における文化資源の保存と活用、価値の創造のサイクルを支えていくのは、これまで公共的な文化施設として整備されてきた図書館、博物館・美術館、文書館・資料館、フィルムセンター、番組アーカイブなどの機関と大学、この新たな体制に適応した文化産業の横断的な連携、すなわちMALUI連携である」。

本学のサービスはインターネット上で公開したことで、Google等の検索エンジンで発見できるため、情報の受け手が私的に利用する範囲にはある程度の環境が整っていると言える。しかしながら、本学が「知識循環型社会における文化資源の保存と活用、価値の創造のサイクルを支えていく」という責務を果たすためには、情報の送り手としてもう一步踏み込んで、次の二つの課題を解決することが望まれる。

第一は、本学の教育研究成果や貴重なコレクションを、本学のブランドを冠してより幅広く効果的に国内外に発信するために、「お茶の水女子大

学」のコレクションとして、トータルに見せられる環境を構築するということである。

第二は、電子版貴重資料およびデジタルアーカイブズの発見・利用経路を充実させることである。専門的な利用にも資するために必要十分なメタデータが付与でき、世界標準規格でのデータ流通が可能なプラットフォームへの乗換えを行なうべく、検討に着手したところである。2016年は、大学に続いて附属幼稚園が創立140周年を迎える。これを機に、新たなチャレンジとして、本学の「幼稚園資料」に含まれる書籍、モノ、文書を同一のメタデータで記述したデータベースを作成する取組みが始まった。現在、MLAの各分野から専門家が参集し、作業を進めている。また、附属小学校の前身である東京女子高等師範学校附属国民学校における集団疎開の、絵日記の電子化・公開を英国マンチェスター大学との連携で計画している²⁵⁾。

小さい組織の学内MLA連携から世界のMALUI連携へ。本学は、世界規模で進むデータのオープン化において、その役割の一端を担いたいと考えている。そして、本学の小さな取組みが、読者の皆さまにとって次の展開を考える一助になれば、大変幸いである。

(もり いづみ) (そめい ちか) (えとり なおこ)

注

- 1) <http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/>, (参照2015-12-02)
- 2) <http://www.lib.ocha.ac.jp/e-book/>, (参照2015-12-02)
- 3) <http://www.lib.ocha.ac.jp/digital.html>, (参照2015-12-02)
- 4) <http://archives.cf.ocha.ac.jp/>, (参照2015-12-02)
- 5) <http://www.lib.ocha.ac.jp/>, (参照2015-12-02)
- 6) <https://kotobank.jp/word/MLA%E9%80%A3%E6%90%BA-1702312>, (参照2015-12-02)
- 7) 石川徹也ほか編. つながる図書館・博物館・文書館：デジタル化時代の知の基盤づくりへ. 東京大学出版会, 2011, 272p.
- 8) 水嶋英治. “博物館・図書館・アーカイブズの概念変化とデジタル文化財”. 図書館・博物館・

- 文書館の連携, 勉誠出版, 2010, p. 131-152.
- 9) 福島幸宏. MALUI(まるい)連携という提案. 情報の科学と技術. 2012, 62(9), p. 402
- 10) NPO知的資源イニシアティブ編. デジタル文化資源の活用: 地域の記憶とアーカイブ. 勉誠出版, 2011, 233p.
- 11) Lorcan Dempsey et al. Collection Directions: Some Reflections on the Future of Library Collections and Collecting. OCLC, 2014
<https://www.oclc.org/content/dam/research/publications/library/2014/oclcresearch-collection-directions-preprint-2014.pdf>,
 (参照2015-12-02)
- 12) 尾城孝一. 大学図書館と国立情報学研究所: 共に考え共に創る未来の学術コンテンツ基盤. 大学図書館研究. 2014, no. 100, p. 86-96.
- 13) 茂出木理子. 『幼児の教育』 ネット公開に寄せて(7): 公開システム構築と運用の立場から. 幼児の教育. 幼児の教育. 2009, 108巻, 7号, p. 20-25. <http://hdl.handle.net/10083/52187>,
 (参照2015-12-03)
- 14) メタデータ概論用語集. DRF 平成24年度機関リポジトリ新任担当者研修. http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?beginner_2012_1,
 (参照2015-12-04)
- 15) <http://jairo.nii.ac.jp>, (参照2015-12-04)
- 16) <http://www.oclc.org/oaister.en.html>,
 (参照2015-12-03)
- 17) <https://erdb-jp.nii.ac.jp>, (参照2015-12-03)
- 18) 餌取直子ほか. お茶大図書館発のイノベーション: 「お茶の水女子大学E-bookサービス」に見る大学図書館の未来. 大学図書館研究. 2014, no. 101, p. 6-14. <http://hdl.handle.net/10083/57706>, (参照2015-12-03)
- 19) 西田好孝. 講演会記録「海堡と西田明則(1828~1906)副題 和算の贈り物」. 海堡: 東京湾海堡ファンクラブニュース. 2005, No.9, p. 1-4. <http://kaihoufc.com/kaihou/kaihouNo9.pdf>,
 (参照2015-12-03)
- 20) 宮澤仁ほか. お茶の水女子大学所蔵外邦図コレクションの全体像. お茶の水地理. 2007, vol. 47, p. 1-14. <http://hdl.handle.net/10083/12721>,
 (参照2015-12-03)
- 21) 東北大学附属図書館/理学部地理学教室. 外邦図デジタルアーカイブ. <http://chiri.es.tohoku.ac.jp/~gaihozu/>, (参照2015-12-03)
- 22) 酒巻純子ほか. お茶大図書館お宝発信!: 日本の幼稚園のはじまり・はじまり. 図書館雑誌. Vol.108 no.4, p. 282-283. <http://hdl.handle.net/10083/56667>, (参照2015-12-03)
- 23) 入江伸. “大学図書館からのMLA連携の視点 インターネット時代のMLA連携の構造”. MLA連携の現状・課題・将来, 勉誠出版, 2010, p. 83-101.
- 24) 吉見俊哉研究室. MALUI連携とデジタル知識基盤. <http://www.yoshimi-lab.jp/project/malui-linkage-and-digital-knowledge-base.html>,
 (参照2015-12-04)
- 25) 疎開の絵日記英語で発信. 読売新聞. 2015-8-11朝刊.

小さい組織の学内MLA連携から世界のMALUI連携へ

～お茶の水女子大学附属図書館と歴史資料館の取組みのご紹介～

森いづみ、染井千佳、餌取直子(お茶の水女子大学図書・情報課)

お茶の水女子大学では、本学の教育・研究成果や所蔵する貴重な史資料を保存し、かつ広く世の中に発信することを目的に、4つのサービスを提供している。本稿は、MLA連携と図書館コレクションの守備範囲の観点から背景を概観したうえで、本学の各サービスの概略を紹介し、特色、課題について述べる。さいごにMALUI連携の観点から、今後のさらなるサービス向上を目指した方向性について述べる。